

空き家を改装し隠れ家風ホテルへ、新事業が始まりました。

高知市の旅館「土佐御苑」が、新たな宿泊サービスを開始しました。以下、朝日新聞デジタルの記事を一部引用します。

高知市の老舗旅館「土佐御苑」が、市中心部に点在する空き物件を改装し、宿泊施設として1棟貸しする分散型ホテル事業を始めた。コロナ禍で高まった個人旅行のニーズに対応しつつ、深刻化する空き家問題の解決にも一役買いたいという。

国の事業再構築補助金を活用し、民家やビル計5棟を総額1億円で改装。昭和レトロの雰囲気を残したり、こだわりのオーディオセットを備えた隠れ家的な宿泊施設に仕上げた。3月1日から宿泊サービスを始めた。いずれも高知市大川筋1丁目の本館から徒歩10分圏内にある。宿泊者は本館に併設された大浴場を無料で利用できるほか、朝食が配達されるサービス（別料金）も受けられるという。

昨秋から2棟で試験運用を開始。3分の1は訪日外国人客で、旅館の宿泊客とは違い、欧州からの利用者も多いという。また、連泊する宿泊客も増えており、同社では長期滞在客へのPRにも力を入れたいという。（略）

横山光寿社長は「60年の歴史を持つ旅館ならではの強みを生かしつつ、時代と共に変化する旅行ニーズに応えられる施設にして、新たな客層を取り込みたい」と話している。

【まとめ】

2023年1月に当社のホームページに掲載したレポートでも述べましたが、高知県は、空き家率全国ワースト1位です。空き家は多くても、実際に住める状態ではないところも多く、1年に約200件も移住を諦める方がいます。今回の取り組みのように、空き家を改装し、活用していくことで、将来的には観光客だけでなく、移住者も増えてくると予想されます。

当社では、不動産売買を通して、高知の空き家問題解決に取り組んでいきます。あなぶき不動産流通では、不動産の売買仲介に加え、買取も検討いたします。心のこもったご提案をさせていただきますので、不動産のご売却・ご購入に関することはあなぶき不動産流通にご相談ください。

【出典】

『空き家物件改装、隠れ家風ホテル 土佐御苑、個人旅行対応へ一役』、朝日新聞デジタル、2024年4月26日最終閲覧